

位置調整可能な橋まくらぎ用レール締結装置の開発

若月修 小佐野浩一 阿部則次

在来線で使用されている橋まくらぎ用レール締結装置は、軌道変位を整正する際、ねじくぎの打ち換え作業が必要なため、橋まくらぎには不要なねじ穴が多数残存し、劣化の要因となっています。さらに、2002年度に開発した橋まくらぎ用レール締結装置は、橋上ガードおよびフックボルトに影響されレールの左右調整作業が困難な状況にあります。また、橋まくらぎ用レール締結装置のタイププレート押え力は、直結8形レール締結装置に比べて非常に小さいため、タイププレートと橋まくらぎ間の摩擦抵抗ではレール横圧力に抵抗することが困難であります。そこで、スタッドボルトを用い、ボルトのせん断力でレール横圧力に抵抗する構造とし、スタッドボルトの打ち換えをせずに座金およびタイププレートを調整することでレールの位置調節が可能なレール締結装置を開発しました。

(鉄道総研報告, 2008年8月号)

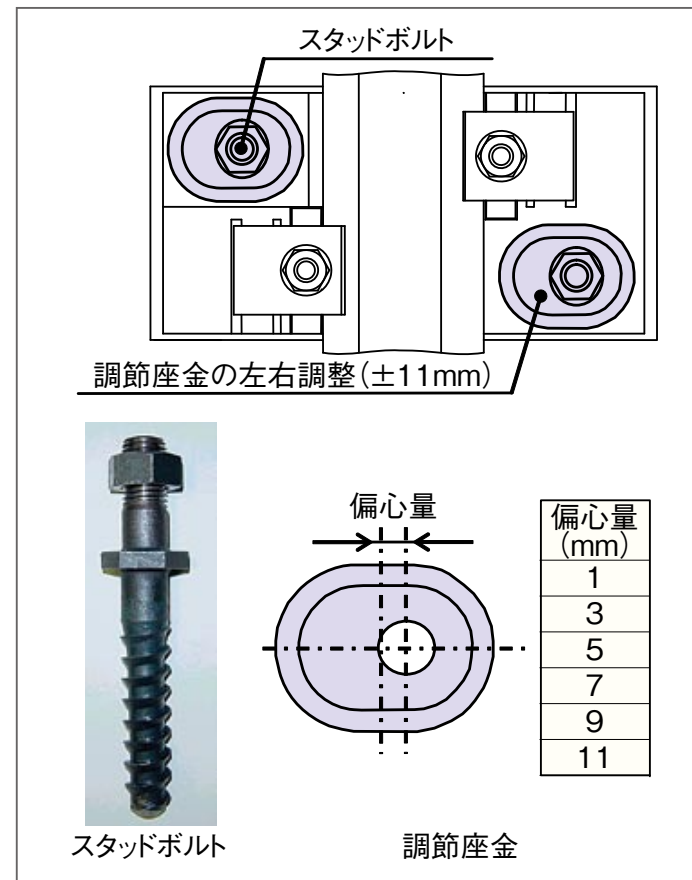


図 調節座金式レール締結装置の調節機構